

BEST AVAILABLE COPY

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開号

特開平6-237818

(43)公開日 平成6年(1994)8月30日

(51)IntCl. 1

A 45 D 34/04

40/26

A 46 B 3/18

識別記号

序内整理番号

F I

技術表示箇所

B

Z 2119-3B

2119-3B

審査請求 未請求 発明の数5 FD (全5頁)

(21)出願番号

特願平6-27572

(71)出願人 392006020

ロレアル

LOREAL

フランス国パリ75008、リュー・ロアイヤル 14番

(31)優先権主張番号 9301344

(72)発明者 ジアン・ルイ、グレ

(32)優先日 1993年2月8日

フランス国パリ75018、リュー・エジェシップ・モロー 15番

(33)優先権主張国 フランス (FR)

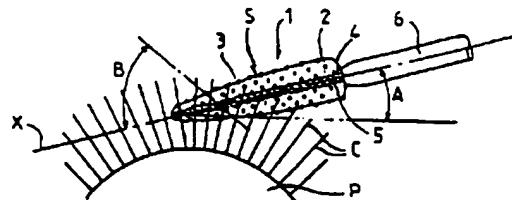
(74)代理人 弁理士 真田 雄造 (外1名)

(54)【発明の名称】 化粧用ブラシ

(57)【要約】

【目的】 化粧品を入れた容器の絞り具に対する抵抗を一層弱くし、化粧品を剛毛に沿い一層よく分布し、化粧品を一層良好に塗布できる化粧用ブラシを提供することにある。

【構成】 化粧用ブラシ1は、U字形に曲げた針金で形成され半径方向の剛毛3を間に捕獲するようにねじった分枝部1、5を持ち、柄6の端部に固定した心2を備えている。この心の剛毛は、左に回してねじられ、柄から化粧用ブラシの端部に向かって進むときに、心の軸線Xのまわりに時計回り方向に回る巻き輪を形成するが、化粧用ブラシの剛毛は、心と、先端を上方に向けて自分の前方に実質的に上下方向にブラシを保持する観察者との間に位置する区域において、左から右に立上がるらせん形の層Sを形成する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 U字形に折曲げた針金で形成され、この針金の分枝部をねじつてこれ等の分枝部の間に半径方向の剛毛を捕捉するようにした心を備え、この心を柄の端部に固定して成る、とくにマスカラをまつげに塗布するための化粧用ブラシにおいて、前記心(2)の前記分枝部(4)、(5)は、前記柄(6)内に固定した心端部から軸線Xに沿って見て、前記柄(6)から前記化粧用ブラシの端部に向かい進んだときに前記心の軸線のまわりに時計回りに回る巻き輪を形成するように左に回してねじるが、前記化粧用ブラシの剛毛(3)は、前記心(2)と前記化粧用ブラシの先端を上方に向けて自分の前方に実質的に上下方向に前記化粧用ブラシを保持する観察者との間に位置する区域において左から右に立上がるらせん形の層Sを形成するようにしたことを特徴とする化粧用ブラシ。

【請求項2】 前記化粧用ブラシの軸線Xに対する前記剛毛のらせん形の層Sの傾斜角Bを約35°にしたことを特徴とする請求項1の化粧用ブラシ。

【請求項3】 前記心を支える前記柄(6)が、前記心から遠い方の他端部に、マスカラを入れた容器Rの頸部(11)にねじ込むためのねじ(9)を設けた栓(8)を備え、前記頸部(11)に、前記容器から前記化粧用ブラシを引き出す時に、この化粧用ブラシが通過する絞り具(12)を設けた請求項1又は2の化粧用ブラシにおいて、前記心の分枝部(4)、(5)を前記栓のねじ(9)と同じ方向に回して巻き輪を形成するようにねじったことを特徴とする化粧用ブラシ。

【請求項4】 前記容器(11)に対して前記栓(8)のねじ込み方向を時計回り方向とした請求項3の化粧用ブラシにおいて、前記心(2)の分枝部(4)、(5)をねじることにより、前記柄(6)に固定した前記心の部分からこの心の自由端に向かって進むときに、前記巻き輪が前記心の軸線Xのまわりに時計回りに回るようにしたことを特徴とする化粧用ブラシ。

【請求項5】 針金fをU字形に折曲げた後に、かつこのU字形の分枝部(4)、(5)の間に剛毛(3)を配置した後に、前記U字形の前記分枝部をねじるようにする、とくにマスカラをまつげに塗布するための化粧用ブラシを作る方法において、前記化粧用ブラシをねじるために、前記U字形の湾曲部分を前記分枝部(4)、(5)の自由端部に対して逆時計回り方向gに回すことを特徴とする方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、半径方向の剛毛を間に捕捉するようにねじつた分枝部を持つU字形に曲げた針金で形成され柄の端部で固定した心を備え、とくにまつげにマスカラを塗布するための化粧用ブラシに関する。

【0002】

2

【発明の背景】 この種のブラシはたとえば仏国特許FR-A-2,663,826号明細に示してある。

【0003】 化粧をするときに使用者は、2つの目の中间横方向線に対して零でない或る角度をなしてブラシの柄を保持する。従って從来知られているブラシでは、使用者は、ブラシの剛毛をまつげに整合させ、まつげを分離させないでマスカラの滴を付着させている。従って得られる化粧効果は改良される必要がある。

【0004】 さらにブラシは一般に、マスカラを入れた容器内に入れられる。この容器は、ブラシが通過する絞り具を設けた頸部を備えている。この絞り具は、絞るのに比較的低い抵抗を伴い剛毛に沿いマスカラを比較的なめらかに付着させることができることが望ましい。

【0005】 本発明の目的はとくに、前記した障害をもはや持たないか又はこれ等の障害の一層少ないとくにまつげにマスカラを塗布する化粧用ブラシを提供することにある。

【0006】 本発明によれば前記したような化粧用ブラシでは、前記心の分枝部は、柄に固定した心端部から心軸線に沿って見て、前記柄からブラシ端部に向かい進んだときに前記心の軸線のまわりに時計回りに回る巻き輪を形成するように左に回してねじるが、化粧用ブラシの剛毛は、前記心と、前記化粧用ブラシの先端を上方に向けて自分の前方に実質的に上下方向に前記化粧用ブラシを保持する観察者との間に位置する区域で左から右に立上がるらせん形の層を形成するようにしたことを特徴とする。

【0007】 軸線に対する剛毛のらせん形の層の傾斜角は約35°とするのが好適である。

【0008】 一般に心を支える柄は、その心から遠い方の端部にマスカラを入れた容器の頸部にねじ込むためのねじを形成した栓を備えている。この頸部に、前記容器から前記化粧用ブラシを引き出すときに、この化粧用ブラシが通過する絞り具を設けてある。本発明によればこのブラシの心の分枝部は、その栓のねじと同じ方向に回る巻き輪を形成するようにねじられる。

【0009】 一般に容器に対する栓のねじ込み方向は、時計回りである。又心の分枝部は巻き輪が柄に固定した心部分から心自由端部に向かって進むときに、心の軸線のまわりに時計回りに回るようにねじってある。

【0010】 すなわち頸部に対し栓をねじ戻す回転運動は、絞り具に対しブラシをねじ戻す回転運動と同じ方向に生ずる。

【0011】 本発明は、針金をU字形に折曲げた後に、かつこのU字形の分枝部の間に剛毛を配置した後に、前記U字形の前記分枝部は、このU字形の湾曲部分を前記分枝部の自由端部に対して逆時計回りに回すことによって、ねじられる。

【0012】 このブラシの剛毛を成形するには、ブラシの回転方向と切りそろえ器の回転方向とを通常の回転方

向に対して逆にする。

【0013】本発明は前記した構造のほかに添付図面に例示した実施例について後述する若干の構造を含むものである。

【0014】

【実施例】図1には柄101に支えた従来のブラシ100を使う化粧操作を示す。右目のまぶたPは上方から見たものである。使用者はその右手に柄101を保持し柄101の軸線と両眼の中間の横方向線に平行な線との間に角度Aをなす。角度Aは実際に10ないし15°の程度である。従来のブラシ100では、剛毛102は、ブラシ100を自分の前方で上下方向に端部を上向きにして保持する観察者に対しこの観察者及びブラシ軸線の間に在る区域で右方から左方に立上がる層103をらせん状に形成する。

【0015】このような構造では図1に示すようにまつげCは実際にブラシの剛毛の層103に整合する。従ってマスカラの滴はまつげにこれ等のまつげをブラシ掛けにより分離させないで付着する。このようにして得られる化粧効果は改良する必要がある。

【0016】このために本発明によれば化粧用ブラシ1は図3に示すように通常U字形に折曲げた針金で形成した心2を備えている。剛毛3は、U字の各分枝部(branch)4、5の間にこれ等の分枝部4、5の平面にはば直交して配置してある。各分枝部4、5は次いで、各枝分かれ脚の自由端に対してこのU字の弯曲端部を左方にすなわち逆時計回りに回すことによつてねじる。このねじり運動は図3に矢印gにより示してある。

【0017】得られる各1巻き(turn)【以下巻き輪と呼ぶ】を示すために図4は部分的にねじった分枝部4、5を示す。各巻き輪はまだ実質的に隣接していない。心を仕上げると図2に示すように各巻き輪は実際に互いに隣接しこれ等の巻き輪の間に剛毛3をつかむ。

【0018】図2及び図4に明らかのように柄内に固定するようにした分枝部4、5の自由端部から軸線Xに沿つて見ると心2の巻き輪は、各分枝部4、5の自由端部から心2の反対側端部に向かって進むときは心2の軸線Xのまわりに時計回りに回る。本発明化粧用ブラシの剛毛3は、心2と、本発明化粧用ブラシをその先端を上方に向けて自分の前方にほぼ上下方向に保持する観察者との間に位置する区域で左方から右方に立上がるらせん形の層Sを形成する。層Sのこの立上がり方向を明示するように、図の平面の前方に位置する各層は実線で表わしてあるが、この平面の後方に位置する層は破線で表わしてある。

【0019】心2の軸線に対する各層Sの平均傾斜角Bは、心2の巻き輪のピッチにより定められる。

【0020】従来のブラシに対して巻き輪を逆にした本発明による化粧用ブラシ1では、化粧中に図2に示すように、まつげCは剛毛の層Sに対し横方向になり、化粧

品を一層均等に付させ、とくにまつげCを出発点から右方に分離する効果がある。約15°の同じ角度Aで各まつげCは、約35°の角度Bにわたり層Sを横切って約70°をなす。

【0021】剛毛3は、U字の各分枝部4、5間に位置させたときに、図3に示すように一般に互いに同じ長さを持ち又各剛毛3の端部は互いに整合する。各剛毛3の中間部は、実質的に心の軸線上にある。従って分枝部4、5をねじった後各剛毛3の端部の包絡面は、心2の軸線Xのまわりに軸対称の円筒面である。一般に化粧用ブラシ1は、円筒形の形状とは異なる形状を持ち、たとえば柄から遠い方の端部に向かいテープを付けた円すい台形の形状を持つ。

【0022】このためにたとえば心の軸線に平行な軸線を持つが反対方向に先端を持つ円すい台形の切り取り具(trimmer)7を使う。切断作業中に化粧用ブラシ1及び切り取り具7を、それぞれ軸線のまわりに回転させる。従来のブラシに対し回転方向を逆にすることによつて、ブラシ及び切り取り具は従来のブラシを切断するようにした方向とは逆の方向に回転させる。

【0023】化粧用ブラシ1は一般に、心2から遠い方の柄6の端部に、マスカラを入れる容器Rの頸部11のおねじ10にねじ込むねじ9を設けた栓8(図7及び図8参照)を備えている。頸部11は、一般にたわみ性材料とくにエラストマー質材料で作った1種の座板から成る絞り具(wringing device)12を内部に設けてある。絞り具12の内部オリフィスの直径は柄6の直径よりわずかに大きいだけで、この絞り具12の貫通が、少なくとも部分的に折れ曲がらなければならぬ剛毛3により生ずる若干の抵抗を受けて行われる。

【0024】本発明によれば化粧用ブラシの心2の巻き輪と、剛毛3の層Sとは、栓8のねじ9と頸部11のおねじ10とに対し同じ方向に回転する

【0025】化粧用ブラシ1を容器Rから引き出すときは、使用者は先ず栓8に回転運動を加えて栓8を頸部11からねじ戻す。この回転運動は逆時計回りに生じさせる。栓8をねじ戻すときは、使用者は、並進運動を加えて抜き出しを終える。実際にこの並進運動は、栓8のねじ戻しを生ずる方向と同じ方向の回転運動により行われる。

【0026】ブラシ1の層Sがねじ9と同じ方向に回転することによつて、逆時計回りの回転運動を受ける各層Sによる絞り具12の通り抜けは絞り具12に対する化粧用ブラシ1のねじ戻しに対応し、絞り具12を通過するときに剛毛3により加わる抵抗を減らす。

【0027】絞り具に対する抵抗の一層弱いブラシの剛毛3は、生ずる部分的真空が一層弱く、従って引き出し中の圧力作用が一層低い。化粧品は剛毛に沿い一層よく分布しこれ等の剛毛は化粧品をまつげCに沿い一層良好

に平滑にする。

【0028】心2の巻き輪のピッチは、絞り具12による絞りを調整するようにねじ9のピッチしは異なるよう選定すればよい。

【0029】化粧用ブラシ1は多くの変化変型を行うことができる。図9は一層大きい横断面を持ち巻き輪ごとに一層少数の剛毛を使う剛毛を備えたわざかに異なるブラシを示す。このブラシは、中心から片寄らせた心を備えてもよい。

【0030】本発明化粧用ブラシは互いに異なる横断面を持つ剛毛を混合して設けてもよい。各剛毛は縦方向の毛管作用スリット又はみぞを備えててもよい。各剛毛は管状でもよい。

【0031】各剛毛3の横断面は異なる形状とし、円形、卵形、多重ロープ付き、長方形、扁平形等にしてもよい。

【0032】各剛毛の端部は、ざざざざを付け又はふくらみを設けてもよい。各剛毛は比較的剛性の剛毛と一層たわみ性を持つ剛毛とを混合して形成してもよい。

【0033】互いに異なる直径の剛毛を混合した場合には、大きい直径を持つ剛毛を一層小さい直径の剛毛より一層長くし又は一層短くしてもよい。各剛毛は、ポリアミド、ポリエステル、ポリエーテルーブロックアミド又はポリテトラフルオルエチレンのような普通の熱可塑性材料から作る。これ等の熱可塑性材料は、これ等の剛毛の温潤性又はそのすべり特性を変える添加物を含んでよい。これ等の添加物は、硫化モリブデン、空化ほう

素又は商品名「テフロン」として市販されている製品、フルエン (fullerens)、黒船、滑石又は類似の材料のうちから選定する。

【図面の簡単な説明】

【図1】従来方式のブラシによるまつげの化粧を示す平面図である。

【図2】本発明によるブラシを使う化粧を示す図1と同様な平面図である。

【図3】本発明ブラシを作る工程位相の側面図である。

【図4】本発明ブラシを作る別の工程位相の側面図である。

【図5】ブラシの剛毛の切削作用を示す側面図である。

【図6】図5のV1-V1線に沿う断面図である。

【図7】本発明ブラシをマスカラ容器から取出し始めるときにおける縦断面図である。

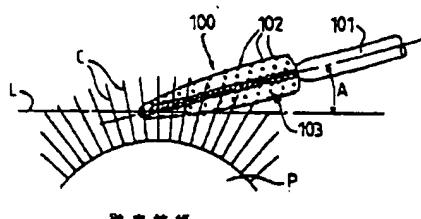
【図8】絞り具に対する本発明ブラシの通過時の状態を示す縦断面図である。

【図9】本発明ブラシの1変型の側面図である。

【符号の説明】

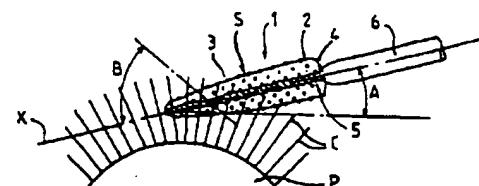
1	化粧用ブラシ
2	心
3	剛毛
4, 5	分枝部
6	柄
S	らせん形の層
X	軸線
f	針金

【図1】

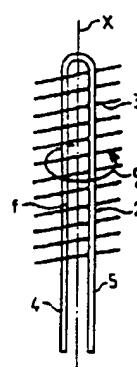


従来技術

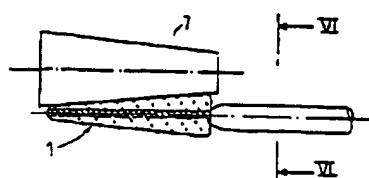
【図2】



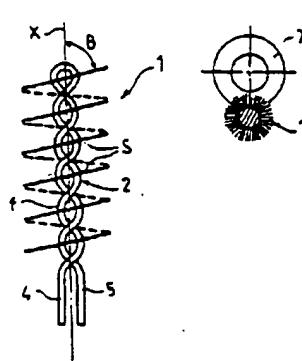
【図3】



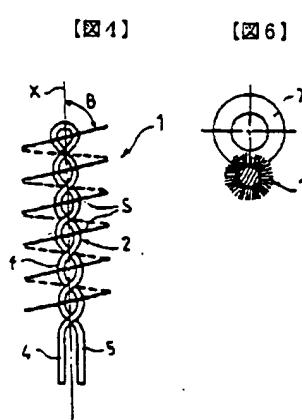
【図5】



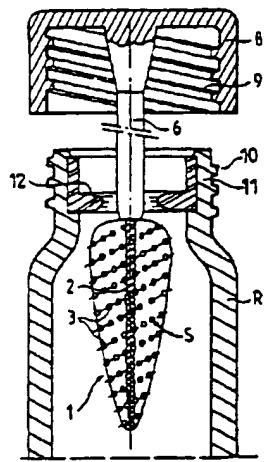
【図4】



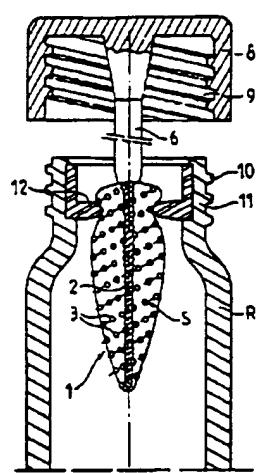
【図6】



【図7】



【図8】



【図9】

